

本年初号のニュースレター第37号をお届けいたします。今号は樋野先生とスタッフの戸田が担当します。

『冗談を本気でする胆力』 ～ 常に志を忘れないよう ～
樋野興夫 (順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長)



2026年1月17日【お茶の水がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC】に赴いた。個人面談の機会も与えられた。大変有意義な 充実した 貴重な時となった。【お茶の水がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC】は、2012年5月26日に当時OCC副理事長であった榎原寛(1941-2020)先生が始められた。

この度、『OCCニュースレター第37号』の原稿を依頼された。今年(2026年)は、『第150回記念誌発行』が企画されるようである。『冗談を本気でする胆力 = 常に志を忘れないよう 心にかけて記憶することである』の実践である。

まさに、『自分の役割と使命の遂行』である。『涙とともに パンを食べた者でなければ 人生の味は分からない』(ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ Johann Wolfgang von Goethe ; 1749-1832) を こよなく尊敬した スイスの作家であるヨハンナ・シュピリ (Johanna Spyri; 1827-1901) の『アルプスの少女ハイジ』の心得『喜んで無邪気に小さなことに 大きな愛を込める』&『愛がなければ 全ては無意味である』が、【お茶の水がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC】の心得であろう！ 継続の大切さを実感する日々である。



自分のモノサシと対話のカタチ

【対話】 直接に向かい合って互いに話すること。また、その話。多くは二人の場合にいう。対談。 —精選版 日本国語大辞典より—

わたしが考える対話とは…

『少人数でひざを突き合わせ行うもの』

『ここらで行うもの』



どうしてそう思うのか？

わたしが相手の話をしっかり聴くことは大人数では難しい

わたしが大勢の人の前で自分の心のうちは話しにくい

またしても、そこには自分のモノサシではかっていた対話のカタチがありました。

Case by case (場合による)

対話のカタチに関与する要素はたくさんあって、人数だったり、年齢だったり、性別だったり、立場だったり、役割だったり、境遇だったり…あげてもあげてもきりがな
い事！ でも、それだからこそその…【対話】なんだと思います。

集うひとによって変わる対話のカタチ

話す人も聞く人もいろんな要素を持っており、1人として同じひとはいない

そのひとの中にある要素は変わらなくても、今どこを強く感じるかは変化している

と、いうことは…【対話】は繰り返していくとカタチが変化し続けるのか？

それとも…【対話】は最終的にはあるカタチになるのか？

【対話】の可能性と多様性

経験や価値観からなる器量によって形成される自身のモノサシにとらわれることなく
何事にも柔軟に対峙していくわたしで在りながら色んな対話のカタチを堪能したい

そう、思います。

お茶の水がん哲学外来・メディカル・カフェ in OCC スタッフ 戸田 裕子

